



**増える老年人口、
求められる介護の充実や
社会参加**

社会の高齢化が急速に進み、市の老年人口（六十五歳以上）は、推計で平成十六年には五万一千三百三十七人となり、高齢化率は人口の十七%に及ぶと予測されます。

介護に必要な高齢者が増えるのに対して、核家族化などにより、家族だけで介護をすることは難しくなっています。このため、高齢者の介護を社会全体で支えることが求められる一方、高齢者自身が介護の必要な状態になることを予防し、家庭や地域で自立した生活をするために、健康づくり、生涯学習、スポーツ活動などに参加することが大切です。

また、これからのまちづくりには、市民、事業者、行政の三者が積極的に参加、行動し、協力しながら取り組む必要があります。

そこで市は、本格的な高齢社会に向けて第二次四日市市高齢者保健福祉計画と第一次四日市市介護保険事業計画を策定しました。



**高齢社会に向け、
介護保険と保健福祉を一体で**

この二つの計画は、平成十六年度を目標とした五カ年計画（三年ごとに見直し）で、

特集

**第2次四日市市高齢者保健福祉計画
第1次四日市市介護保険事業計画**



健康で安心と生きがいある

長寿社会

を目指して



社会の高齢化が急速に進む中、4月からは介護保険事業が始まりました。そこで市では、高齢社会に向けて総合的な取り組みを進めるため、第2次四日市市高齢者保健福祉計画と第1次四日市市介護保険事業計画を策定しました。これに基づき、市民と事業者の取り組みも含め、高齢期になっても健康で安心でき、生きがいを持って暮らせる長寿社会を目指します。

